

筑波大学中地区におけるバリアフリーの調査

一車椅子利用者が介助者なしで通行できる場所とは一

竹原 繭子（地球科学専攻）

1. 目的：筑波大学には多様な学生が在学し、キャンパスで過ごしており、バリアフリーマップは存在するものの、未完成状態で傾斜を測ったものがまだない。そこで介助者有無に応じて通行できる傾斜の指標をもとに、通行できないスロープ箇所を明示して、学生が授業に間に合うにはどうすればいいかを示すことを明らかにする。

2. 対象地域：対象地域は筑波大学キャンパスの中地区（範囲：建築物の出入り口から外側）

3. 地図使用の対象者：①車椅子利用者

4. 研究手法

建物移動円滑化基準に基づいて、車椅子利用者が実際に通行しにくい斜面のあるところに行って斜面の勾配と道幅を計測した。（全 74

か所）通行しにくい勾配については、車椅子利用者の介助者の有無を考慮した上で以下のように区分した。

- | | |
|---------------|--------------------|
| A) 介助者なしで通行可 | ; 1/15 ≤ 勾配 ≤ 1/12 |
| B) 要介助者 | ; 1/12 < 勾配 ≤ 1/8 |
| C) 介助者ありでも通行難 | ; 1/8 < 勾配 |

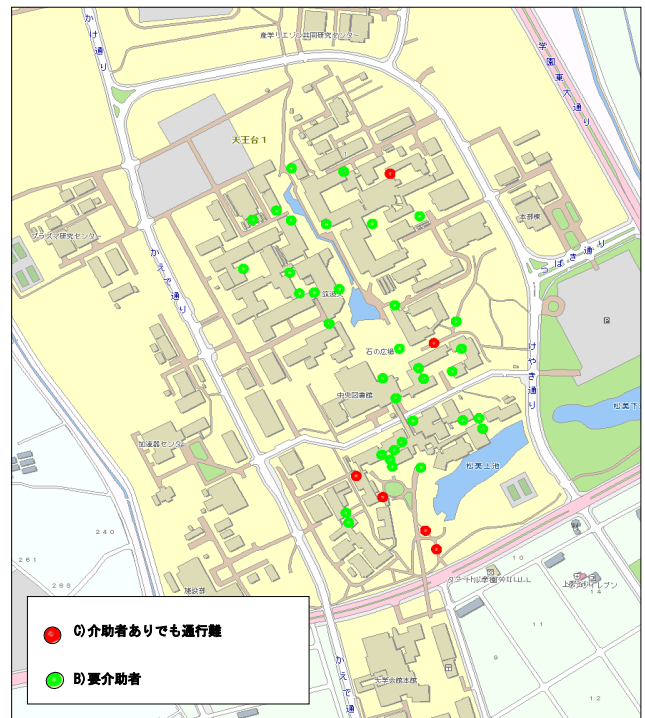
5. 結果および考察

74 か所中… A:31・B:36・C:7

番号	建物	勾配	通行状況	番号	建物	勾配	通行状況
1	理学部1号館	1/22	A	32	工学部総合実習室	3'	A
2	理学部2号館	1/20	A	33	工学部基礎棟	3'	A
3	理学部3号館	1/17	A	34	理学部4号館	3'	C
4	理学部4号館	3'	A	35	人文社会学部棟	A	A
5	理学部5号館	16'	G	40	人間共生施設	3'	B
6	理学部6号館	1/13	A	41	人間共生施設	3'	B
7	理学部7号館	1/12	A	42	工学部実験棟	3'	B
8	理学部8号館	1/28	A	43	工学部実験棟	1/12	A
9	理学部9号館	1/12	A	44	工学部実験棟	1/12	B
10	理学部10号館	1/26	B	45	工学部実験棟	1/8	B
11	理学部11号館	1/12	A	46	工学部実験棟	1/12	B
12	理学部12号館	3'	B	47	工学部実験棟	1/12	B
13	理学部13号館	1/9	B	48	工学部実験棟	1/12	B
14	理学部14号館	3'	B	49	工学部実験棟	1/12	B
15	理学部15号館	1/14	B	50	工学部実験棟	1/12	B
16	理学部16号館	1/16	A	51	工学部実験棟	1/8	B
17	理学部17号館	1/18	B	52	工学部実験棟	1/8	B
18	理学部18号館	1/18	B	53	工学部実験棟	3'	B
19	理学部19号館	1/11	B	54	工学部実験棟	3'	B
20	理学部20号館	1/12	A	55	工学部実験棟	3'	B
21	理学部21号館	1/15	B	56	工学部実験棟	3'	A
22	理学部22号館	1/18	B	57	工学部実験棟	1/12	B
23	理学部23号館	1/9	B	58	工学部実験棟	3'	B
24	理学部24号館	1/8	B	59	工学部実験棟	3'	B
25	理学部25号館	4'	A	60	工学部実験棟	3'	A
26	理学部26号館	3'	B	61	工学部実験棟	1/15	A
27	理学部27号館	1/26	A	62	工学部実験棟	3'	C
28	理学部28号館	1/15	A	63	工学部実験棟	1/5	A
29	理学部29号館	1/15	A	64	工学部実験棟	1/7	C
30	理学部30号館	1/8	A	65	工学部実験棟	1/8	B
31	理学部31号館	1/18	A	66	工学部実験棟	1/8	B
32	理学部32号館	1/9	B	67	工学部実験棟	1/12	A
33	理学部33号館	1/8	B	68	工学部実験棟	3'	A
34	理学部34号館	3'	A	69	工学部実験棟	3'	A
35	理学部35号館	3'	A	70	工学部実験棟	3'	B
36	理学部36号館	1/5	A	71	工学部実験棟	1/8	A
37	理学部37号館	1/12	B	72	工学部実験棟	1/15	B

スロープには幅が 50 cm未満のものだと階段脇に併設し

ており、自転車を押すためにあるものと、幅が 1.5m以上で比較的なだらかな車椅子向けのものと、幅が 2.0m以上で傾斜は元の道のまま(なだらかにする工夫のないもの)の3種類に大きく分類されているように思われた。



第1図 車椅子利用者の人が通行上困難を要する地点

図書館や学食付近と比較して、学生が授業や研究を行う棟にはスロープが多く、実験に必要な重量のあるものを運ぶ際にも利用されていた。施工図に記載されていない、後付けされたスロープは、車椅子利用学生のためのバリアフリーとしての義務として存在しているように思われた。介助者無しで通行できる勾配の緩いスロープもあるが、筑波大には自転車の利用者も多いので休み時間の10分で移動することはどの場合でも容易ではない印象を受けた。さらに半数以上が要介助者のものである。勾配は緩いと数字で分かっても筆者自身の感覚でスロープを目にした際、曲線のスロープでの登りは困難に思える。介助者無しの場合が多いと思うが、車椅子利用者を見かけたら積極的に介助をするべきだと思った。